

ASAHI MACHI

㊦ 広報 あさひまち

五穀豊穰 願い奏でる
雅楽の音色



2017

5

No. 726

朝日町ワイン「炭酸ガス充てん装置」導入



スパークリングワインの 商品開発・製造を強化

朝日町ワインでは、スパークリングワインの品質安定と向上、増産を目的に、平成29年3月末に新たな炭酸ガス充てん装置を導入しました。

装置を活用した新商品として、5月1日より「朝日町シードル Sec」（写真左）を発売。町内産のりんごを原料に、県産農産物の利用拡大と生産農家の所得向上を目指します。

装置はイタリア製で、導入費用は約500万円。県の食産業王国やまがた推進事業と町の補助金事業に採択され、県より費用の3分の1、町より10分の1の補助を受けました。瓶の洗浄、ワインと炭酸ガスの充てん、栓打ちまでの作業を自動で行い、生産能力は1時間で最大約1400本。従来の手詰めでの作業の約6倍の効率で、高品質の商品を増産できる体制が



5月1日より新発売「朝日町シードル<< Sec >>」

この度新発売されたシードルは、町内産のシナノスイートと秋陽を使用した「やや甘口（Sec）」。今年は商品種25トンずつ計5トンを使用し、750ミリリットル瓶約4700本を出荷予定です。りんご畑をイメージしたラベルがかわいらしく、女性が手に取りやすいデザインも魅力です。「この装置でワインのおいしいタイミングを逃さず、一気に瓶詰めが可能となりました」と同社の白田重明取締役。「シードルに続き、今年度は赤ワインのスパークリング商品開発を計画しています。使用するのは町産のブドウ『マスカットベリーA』。赤ワインのスパークリングは全国的にも少なく、良い商品を作れば県産農産物も含め、さらなる消費拡大が期待できます」と意気込みを語っていました。

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
 - 朝日町ワイン「炭酸ガス充てん装置」導入
- P4 特集
 - 地域医療と町立病院
- P10 町政スポット
 - ・町消防団春季消防演習
 - ・今年度の区長さんをご紹介します
 - ・朝日町立病院院長 小林達氏に「へき地医療貢献者表彰」 ほか
- P12 平成 29 年 朝日町成人式
- P14 まちレポ
 - ・日本カヌーフリースタイル選手権
 - ・高田山ブナの森探索会 ほか
- P16 6総策定町民ワークショップふりかえり新聞
- P20 健康あさひるばんざい、朝日町エコミュージアムサテライト散策、それいけ 協力隊とウサビ、町立図書館コーナー
- P22 町民の声、朝日中3年生修学旅行で町をPR
- P23 戸籍のまど、となりのリンゴさん
 - 前田沢公民館に「花咲か爺さん」
- P24 今年もおいしい「雪りんご」できました。

表紙の写真



今年1年の無病息災と五穀豊穡を願う大沼浮嶋稲荷神社の例大祭が、5月5日、大沼地内で行われました。

ホラ貝の音を合図に神社の社務所から行列が出發。厳かな音色を奏でる雅楽隊を先頭に、神社宮司や白装束の氏子たち、地区住民も加わって、約1キロの道のりを進んでいきました。

町長歳時記 (130)

人生のステップ

～ 純粋、誠実、ひたむきに
一歩一歩努力しよう～

ある新聞のコラムを読んでいたら、こんな文章が目に入ってきました。

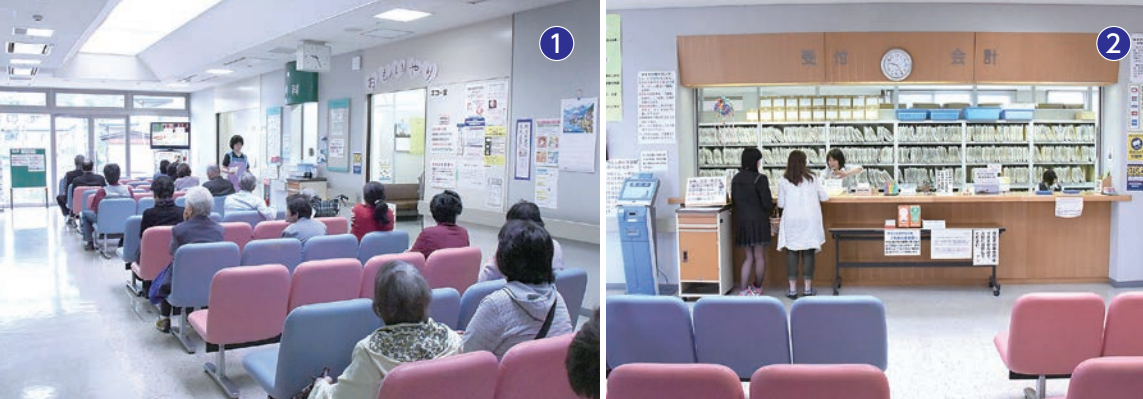
「何もかもが最初から目標として見えていたわけではなく、一つ一つ誠実に向き合うことで、人生の次のステップが見えてくる。」千葉工業大学理事である細川珠生氏の言葉です。さらにここで、レアアース研究の第一人者であり、南鳥島付近の海底で中国の50倍の濃度のレアアースが堆積していることを発見した東京大学加藤泰浩教授の話を紹介していました。加藤教授は最初からレアアースの研究をしたいと思っていたのではなく、最初の動機は純粋に「46億年の地球の勉強をしたい」というものだったそうです。地球環境と生命の進化の手がかりが、海の泥にたまっていくことから、膨大な調査研究を進める中で、このレアアースの発見につながったのだそうです。

このように、多くの研究は純粋・素朴な疑問や興味関心から始まっていますが、幾度となく訪れる困難や挫折にも誠実に向き合い、一つ一つの研究を粘り強く続け克服することによって、次のテーマが現れ、「世界の最先端をいく研究」そして「世界的なテーマ」に行き着くのではないかと紹介しておりました。

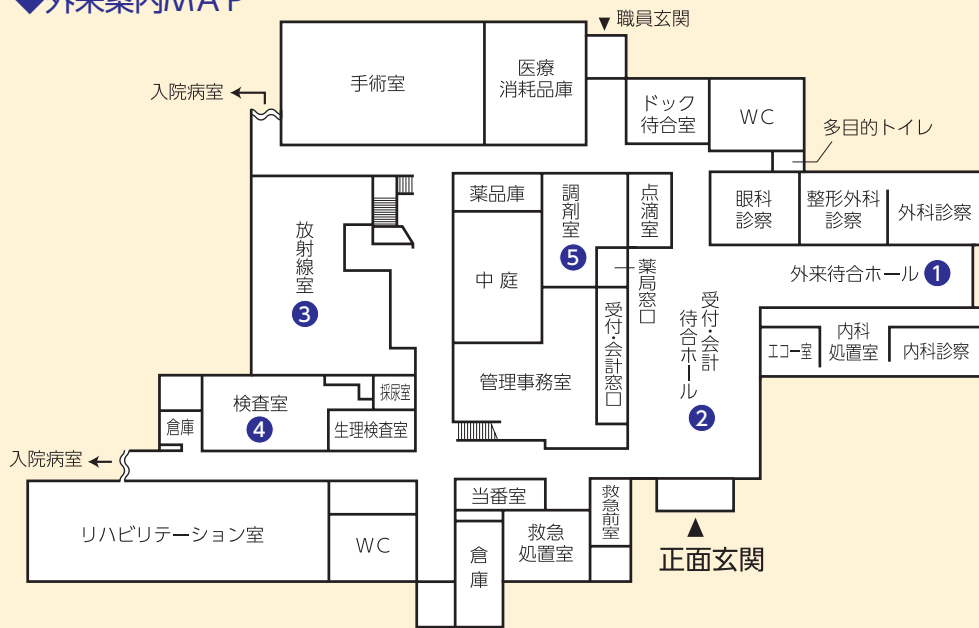
また、数多くの有能な研究者はみな、「研究は世の中に役立つためにする」と口をそろえて言っています。あきらめず事をやり遂げ克服し、さらに成長を続けようとする原動力。それは「世のため、人のために尽したい」という思いが人生の目標の根底にあるということです。

目の前の仕事、目の前の課題、目の前の問題に、一つ一つ誠実に取り組むことによって、次のステップが見えてきます。そしてさらに次のステップへと向かう、その努力の積み重ねこそが、その人の人生そのものになってくるのではないかと思います。

朝日町長 鈴木浩孝



◆外来案内MAP



予防から治療、在宅医療まで…「地域包括ケアの拠点」を担う

◆病院基本データ

所在地	朝日町大字宮宿 843 番地
構 造	鉄筋コンクリート造 一部2階建て
床面積	4,017平方メートル
病床数	60 床
病床機能	急性期
診療科目	内科、外科、整形外科、眼科

◆「新町立病院改革プラン」の具体的な取り組み

- ①町民の求める外科系常勤医の確保に全力で取り組みます
- ②平成 30 年末を目標に「地域包括ケア病床（10 床程度）」を新設します。あわせて一般病床を一部削減し、適切な病床数とします
- ③新たに理学療法士を1名採用し、リハビリ機能の強化、地域包括ケアの推進に努めます
- ④現在の専門外来（糖尿、循環器、肝臓）を含めた診療体制を堅持します

これらの状況を鑑みて、新たに策定した病院改革プランでは、さらなる地域包括ケアの推進のため、地域包括ケア病床の本格稼働とリハビリ機能の強化を挙げています。

また、専門外来を含めた診療体制の維持、町民の皆さんから要望の多い外科系常勤医師の確保などを目標に掲げ、より質が高く、地域に合った持続可能な病院経営を目指します。

新町立病院改革プランの要点

また、町立病院にも代表される「急性期病床（※）」は県が推計した必要量の予測によると将来的には過剰となり、「回復期病床（※）」は不足が見込まれることから、回復期機能への転換を進める必要があります。

西村山区域の医療現状と課題

現在、西村山区域の救急医療や専門性の高い医療は、「県立河北病院」のほか、県全域を診療圏とする「山形大学医学部附属病院」や「県立中央病院」など、山形市内の病院が担っている状況です。

昭和 33 年の開設以来、町内唯一の入院機能を持つ医療機関として、また、平成 21 年度からは「地域包括医療・ケア施設」に認定され、予防から治療、在宅医療まで一貫した医療サービスを提供し、地域医療を担ってきた「朝日町立病院」。

近年、全国の公立病院で医師不足など様々な情勢の変化による経営悪化が課題となっていますが、町立病院の状況も同様で、平成 26 年度から、その収支は赤字へと転じています。

改善策として町立病院では、平成 29 年 3 月に「新朝日町立病院改革プラン」を策定。今号では、このプランを元に、町立病院の現状と課題、地域包括ケア拠点として担う役割について見直します。

町立病院の現状と課題

現在の診療棟は、平成 10 年 3 月 31 日に完成。当時最新の CT スキャンを導入した CT 室や手術室、会計業務の迅速化を図るコンピュータ機器の導入さらに、機能回復訓練を行うリハビリテーション室などが充実しました。

収支決算は平成 21 年度に黒字に転じ、同年策定の「朝日町立病院改革プラン」に沿った着実な運営の下、5 年間それを維持してきました。

しかしながら、常勤外科医退職に

24 時間対応の医療体制

朝日町立病院は町内で唯一の入院機能を持つ病院であり、平成 2 年 3 月 31 日より救急告示病院の指定を受け、救急患者の 24 時間受け入れを行っています。

診療科目は「内科」「外科」「整形外科」「眼科」の 4 科。患者の約 9 割が 60 歳以上の方です。そのため、ただ単に病気を治すだけでなく、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるための医療や福祉の提供を目的とした「地域包括ケア」に特に力を入れています。

（※）病床の医療機能の解説 「急性期」…急性を要する患者の早期安定化に向け、医療を提供する。「回復期」…急性期を経過した患者の在

宅復帰に向けた医療や、機能回復訓練を提供する。 そのほか「高度急性期」「慢性期」という 4 種の機能に分類される

▶町医療の中核を担う「町立病院の役割」

町唯一の公立病院として、朝日町立病院は、民間医療機関では実施が困難な医療（24時間365日の救急外来受け入れなど）を提供し、町民の皆さんが安心して暮らせる環境をつくるという責任があります。

また、右図で示した「地域包括ケアシステム」が円滑に機

能するためには、「医療」と「介護（予防含む）」の連携が特に重要です。朝日町立病院では、寝たきり防止や日常生活への復帰を支援するリハビリテーション機能の強化に加え、下記のような事業で、町や町内の福祉・民間医療機関と連携し、地域医療の維持と発展に努めています。

地域との連携

◆在宅医療介護連携町内研修会への参加

町と町医師会が主催する研修会へ参加。町立病院スタッフほか、町内医療・福祉関係者が一堂に会し、地域での実例をまじえながらワークショップ形式で意見交換をしました。在宅医療介護の課題や役職別の対応、その役割を確認するとともに、信頼関係を築きました。



町との連携

◆連携会議

「地域包括支援センター（町健康福祉課内）」と連携会議（月1回）を行い、介護サービスが必要な方などへの支援について、連携を図っています。

◆認知症初期集中支援チーム

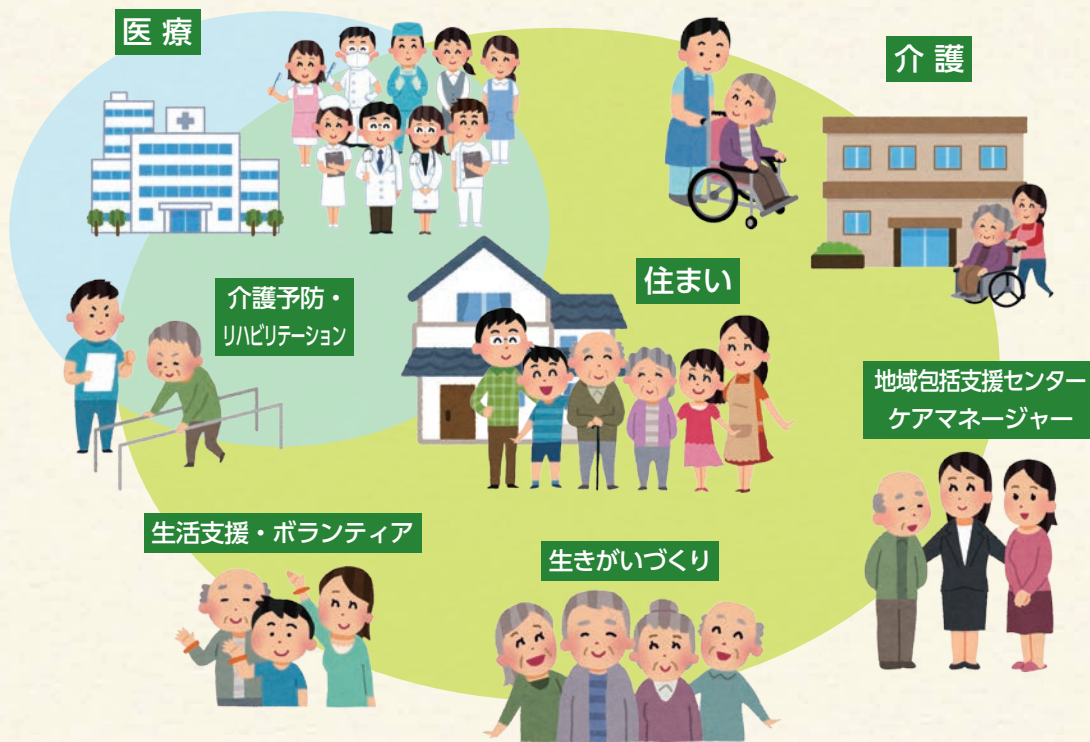
平成29年3月に「認知症初期集中支援チーム」を発足しました。町立病院の小林達院長を「認知症サポート医」として、病院看護師や作業療法士、町保健師、介護福祉士などをチーム員とします。

認知症に関して、専門的見識から指導や助言、相談などのサポートを行います。



地域包括ケアシステムのイメージ

※「住まい」を基点に概ね30分圏内で下記サービスを受けられるという想定



▶どうして「地域包括ケア」が重要なのか？

平成29年4月1日時点で、町の65歳以上の人口は2,884人。これは総人口の40.1%を占め、県内でも2番目の高齢化率です。このような状況から、今後はさらに介護福祉施設や医療機関への入所・入院がしにくくなっていく可能性も考えられます。

そこで、「高齢者やその家族の暮らしを、住み慣れた自宅等を中心に地域全体で支えていこう」という取り組みが「地域包括ケアシステム」なのです。

近年全国的に進む少子高齢化問題。国の推計（※）によると、2050年には、1人の若者が1人の高齢者を支えなければならない時代がくると予想されています。

「地域包括ケア」とは、こうした少子高齢化に伴う介護や医療に関する問題について、市町村や地域をあげて「住まい」「医療」「介護」「生活支援・介護予防」すべての分野で包括的に支援できる体制を整備していくという取り組みです。（※）厚生労働省「今後の高齢者人口の見通し」より

町立病院は「地域包括ケア」を推進しています

「地域に寄り添い、“真心のこもった” 医

心をとめて安心と信頼の医療サービスをもろろん、町立病院ですべての治療を行える訳ではありません。しかし、より高度な医療が必要な場合は最善の医療機関をご紹介しますし、当院で提供可能な医療は、何より心がこもっているという自信があります。

これからの安心と信頼の医療を提供するため、スタッフ一同頑張っています。どうぞ幅広く活用ください。

【回復期病床】への転換

また、来年末を目標に、病床の一部を「地域包括ケア病床」という回復期病床に転換する計画を立てています。

当院の病床機能は現在すべてが「急性期病床」で、「平均入院日数21日以下」と定められています。対して「回復期病床」は「最長60日の入院が可能」となり、これによりじっくりとリハビリに取り組んでいただけます。

【生活を支える】病院として

当院では、いかに生活機能を低下させずに退院していただくかを考え、入院中は、治療と並行してリハビリを開始できるようにしています。

また、退院後もケアが必要な場合には、介護に適した住宅改修のアドバイスや訪問リハビリ、介護機関との連携など、できるだけ住み慣れた環境で生活できるようサポートをしています。

療サービスを提供します」

変化している「医療のあり方」

昭和33年、町民の皆さんの期待を一身に背負い産声をあげた朝日町立病院も、来年で開設60周年を迎えます。

開設当時は医療の確保に重点が置かれ、「治す医療」が主であり、いかに長生きをしていただくかが課題でした。ところが現在、日本人の平均寿命は男性81歳、女性87歳と、長生きするのが当たり前の時代です。そうすると、病気を治すだけでなく「生活を支える医療」という視点が必要になってきます。

朝日町立病院のこれまでの取り組みと、これからの転換について、小林院長よりお話をうかがいました。



朝日町立病院 小林 達（こばやし とおる）院長

朝日町出身。東北大学医学部を卒業後、長井市立総合病院勤務などを経て、平成3年に町立病院へ内科医として赴任。平成6年より院長を務める。

生涯いきいき、元気に生活していくためのお手伝いをしています

リハビリテーション室へようこそ！

病気やケガは無いのが一番。しかし長い人生いつかは自分の体が思うように動かなくなる時が来るかもしれません。リハビリテーション（以下リハビリ）は、そんな体の機能回復はもちろん、いきいきと楽しく、豊かな日常生活を送るための訓練。朝日町立病院では、充実の設備と明るいスタッフが、あなたの生活を強力にサポートします。



誰もが活動的になるリハビリ室

4月28日。町立病院のリハビリ室は多くの人でにぎわっていました。貼り絵にぬり絵、様々な作品づくり、ストレッチにトレーニング…。ぱっと見回してみても、何もせずじっと座っている方はいません。「せっかく来ていただいたからには、時間いっぱい楽しく活動してもらえよう気を配っています」と主任作業療法士の清野敏秀さん。その眼差しは優しく皆さんを見守っています。

「やりたい」をお手伝いする仕事

「ご本人が一番動きたいし、いろんなことをやりたいと思っています。はず。やりたいことなら続けられるし、できることが増えれば生活も楽しくなります」と清野さん。

その言葉どおり、ここでは誰もがいきいきと明るい笑顔。「リハ

ビリは楽しい」と口を揃えます。

住み慣れた地域ですと元気に

無理してでも体を必死に動かすことがリハビリではありません。例えば家事や畑仕事など、生活の動きを活発にすることで体の機能が維持向上したり、地区行事などの社会参加を通して生きがいが増えていく…。そうした普段の生活を楽しむことがより大切です。

もしそれが一人ではできなくなった時には、町立病院をはじめ、行政や地域の医療・福祉機関がお手伝いします。いろんな人に上手に頼って、住み慣れた朝日町ですと元気に暮らしていきますよ。

利用者の声

来れない日は損した気持ちになります

訪問リハビリから通所リハビリに変わり、ここに通うようになって約1年が経ちました。

リハビリは、実践してすぐに効果が感じられるのがすごく励みになります。また、病院スタッフの皆さんが親切で明るく、お休みなどで来れない時には損に思えるくらい楽しみになっています。

普段の生活で、周りの人もみんな気遣って手を引いてくれたりしますが、私としてはできる限り自分で動けるようになって、迷惑にならないよう

にしたい…。これからも自分のペースで、元気にリハビリを頑張ります。



リハビリテーション室に通い始めて1年目
村山 クニヨさん（太郎一）

◆町立病院では「訪問リハビリ」も行っています

退院後、自宅で日常生活を送るのが不安だと感じる方で、リハビリテーション室まで通うのが困難な方のために「訪問リハビリ」を行っています。

患者さんのお宅に直接訪問し、自主練習メニューの作成や本人と家族が暮らしやすい住宅改修のアドバイス、町や福祉施設と連携してリハビリメニューの提案などを行います。

「訪問リハビリ」および「通所リハビリ」のご利用には、医師の診断が必要になります。まずはかかりつけの医師にご相談ください。



◆「理学療法士」と「作業療法士」とは

「理学療法士」は主に【動作】の専門家。座る、立つ、歩くなど、生活の基本動作の回復や維持をサポートします。例えば体を動かして行う運動療法や、温熱や電気刺激などの機器を使った物理療法、糖尿病などの生活習慣病の予防や改善に必要な運動指導などを行います。

「作業療法士」は【心と体のリハビリ】を行う専門家。食事やトイレ、入浴など、日常生活を送るために必要な機能回復をサポートします。また、趣味ややりたいことをもう一度できるように練習をしたり、道具や環境を工夫してアドバイスを行います。

◆町立病院リハビリテーション室スタッフの皆さん（敬称略）

【上左から】阿部忍（作業療法士）、嶋秀代（リハビリ助手）、清野敏秀（主任作業療法士）

【下左から】伊藤彩（理学療法士）、阿部恵莉（理学療法士）、工藤直美（理学療法士）



朝日町立病院院長 小林達氏に「へき地医療貢献者表彰」

■朝日町立病院 ☎67-2125



表彰状を手にする小林院長（右）と鈴木町長（左）

15年以上に渡り、山村・離島等の医療確保に尽力された医師に対して功績を称える「へき地医療貢献者表彰」。その36回目となる平成28年度受賞者に、朝日町立病院院長である小林達氏（西町）が選ばれ、この度表彰を受けました。

小林氏は平成3年4月に町立病院に副院長として着任以来25年間に渡り、地域における医療の確保と保健活動の充実、発展に尽力。特に在宅医療や糖尿病教室を積極的に行うなど、町民の健康保持、増進に貢献されました。また、平成6年4月には院長に就任し、地域包括ケアの充実と強化に献身的に努めている功績が評価されたものです。

表彰を受け小林氏は、「このような栄誉ある表彰をいただき大変恐縮です。これからも町民の皆さんの安心と健康のために一層励んでまいります」と喜びを語っていました。

町民の安心安全のため 日頃の訓練成果を披露 町消防団春季消防演習

■総務課 防災係 ☎67-2111



▲幼年消防クラブの元気な「火の用心」の声が商店街に響いた
◀自動車ポンプ模範操作の様子

4月23日、町消防団の春季消防演習が朝日町創遊館駐車場を主会場に開催されました。

この演習は、町民の安心と安全を守る町消防団の祭典。日頃の訓練成果を披露する年に一度の大規模演習に、総勢約250人の団員が集結しました。

浅岡清二郎団長による訓示のあと、小隊訓練や小型・自動車ポンプによる模範操作を披露。その後、会場を宮宿商店街に移し、火災防ぎよ訓練と分列行進が行われました。

幼年消防クラブの放水訓練では、凛々しいハッピ姿のあさひ保育園園児たちが、訓練用の消防ホースで放水作業を体験。元気な声で「火の用心」をよびかけました。

火災防ぎよ訓練では、火災を告げるサイレンと共に町消防全重両隊が出動。一斉放水が開始されると、沿道に集まった町民からは、大きな声援がおくられていました。

建立の経緯から散策マップ、参拝方法まで解説 空気神社のリーフレットが刷新

■総合産業課 交流観光係 ☎67-2113



◀空気をイメージした爽やかな水色の表紙が目印

町と町観光協会ではこのほど、空気神社のリーフレットを刷新しました。

空気をイメージした水色の表紙が目印。内容は神社建立の経緯から参道散策マップ（五行のミニチュメントの解説）、参拝のしかたや地下本殿の紹介など、観光に訪れたお客さまから質問の多かった項目が1冊でわかるようになっています。

A4判3つ折りで手に取りやすく、開くと一面になり見やすいデザイン。リーフレットは町観光協会、Asahi自然観ほか、道の駅あさひまちなどで配布しています。ぜひ活用ください。

今年度の区長さんをご紹介します

■政策推進課 地域振興係 ☎67-2112

■中部地区【25区】

本町	清野 正幸	92
西町	村山 澄男	110
栄町	佐藤 源六	56
助ノ巻	海野 武雄	52
大町	多田 秀人	165
元町	安藤 實	56
西原	渡邊 勇一	18
前田沢	柴田 勇	63
新宿	清野 信廣	61
四ノ沢	柴田美喜雄	57
小原	菅井 俊美	43
宿	佐藤 敏行	32
沼向	菅井 正人	55
平	菅井 茂雄	15
大隅	菅井 一郎	32

古楨	渡邊 勝	25
送橋	相座 芳和	31
下芦沢	岡崎 兼一	20
水本	岡崎 重勝	23
杉山	鈴木 久男	24
松原	安藤 茂雄	27
宇津野	阿部 登	41
大滝	柴田 良二	21
雪谷	鈴木 進	13
緑町	森本 豊美	51

■西部地区【16区】

常盤	長岡 信悦	92
夏草	井澤 壽一	48
長沼	海野 和義	15
西船渡	宮本 建一	41

八ツ沼	佐竹 幸一	42
能中	志藤 寛一	37
高田	鈴木 満	15
太郎一	佐竹 敏幸	47
太郎二	小川 澄夫	33
太郎三	長岡 典巳	20
石須部	熊谷 純雄	11
立木	児玉 孝童	29
白倉	阿部 馨	9
松程	阿部 敏昭	93
大船木	鈴木 利和	20
今平	鈴木 茂	12

■北部地区【14区】

大谷一	白田 和好	29
大谷二	佐々木辰一	37

大谷三	白田 富彦	37
大谷四	長岡 定	25
大谷五	池田 伸一	71
大谷六	白田 幸輝	44
大谷七	村山 順一	13
中沢	五十嵐藤司	33
真中	武田 賢一	36
舟渡	堀 謹一郎	26
栗木沢	遠藤 清志	81
川通	志藤 政喜	13
大暮山	堀 幸雄	29
大沼	東海林新一	27

※緑文字は新任区長、数字は世帯数です

【町区長会役員】

区長会長…安藤真中部地区区長会長（元町） 副会長…堀幸雄北部地区区長会長（大暮山）、海野和義西部地区区長会長（長沼）



委嘱状が交付された鈴木義昭議員

5月1日に行われた平成29年第1回朝日町議会臨時会の議員による選挙で、岡崎吉博氏（水本）が議長に再選されました。任期は平成31年5月1日までの2年間です。

また、副議長に柴田喜久雄氏（助ノ巻）を選出したほか、議員選出の監査委員に鈴木義昭氏（大暮山）を選任。議会終了後委嘱状の交付が行われました。



再選した岡崎吉博議長

朝日町議会議長に岡崎吉博氏（水本）が再選

▶成人式に出席した 69 人です



新成人の晴れ姿に次々とレンズが向けられます



お祝いのお酒で乾杯！



恩師との再会



みんなで「はい、チーズ！」



桃色ウサヒと記念撮影



思い出のワイン！



▲新成人に贈られたのは、中学3年生のときに収穫したブドウから作られた記念のワイン。ラベルも当時の写真やイラストをあしらったオリジナルデザイン

仲間と酌み交わすお酒は格別



平成 29 年 朝日町

成人式



4月29日、平成29年町成人式が創遊館で行われました。今年の対象者は、平成8年4月2日から9年4月1日生まれの男性39人、女性39人の合計78人（平成20年4月1日以前の転出者を除く）で、全体の約9割にあたる69人が出席しました。

式典では新成人を代表し、成人式実行委員長の阿部由良さん（緑町）があいさつ。「これからは私たち若者が町の力となり、町を担っていく番。まだまだ未熟ではありますが、社会人として、また朝日町出身者としての責任と自覚を持ち、日々を過ごしていきたい」と誓いの言葉を述べました。

強く美しく成長し、級友との再会を喜び合う新成人の皆さん。式典後には祝賀会が開催され、仲間や恩師の先生方との思い出に花が咲きました。



「誓いの言葉」を述べる成人式実行委員長の阿部由良さん（緑町）



4/29 県内外の中学生 102 チームが熱戦 第 39 回朝日町長杯剣道大会

第 39 回朝日町長杯争奪剣道練成大会（中学生の部）が、4 月 29 日、朝日中学校体育館を会場に開催されました。新年度間もない時期の開催とあって、毎年新チームの冬季練習の成果と顔ぶれが確認できる大会。今年も男子 63、女子 39 の合計 102 チームがエントリーし、熱戦を繰り広げました。朝日中は男子が予選突破後惜しくも本戦 1 回戦で敗退、女子は 2 年連続 4 回目の優勝と大健闘をみせました。



◀プレゼントされたエコバッグ。中にも手づくりのおもちゃがたくさん

5/2 交通安全の願いを込めて 大谷小新一年生へエコバッグのプレゼント

5 月 2 日、大谷地区のお茶のみサロン「ひまわりサロン」（渡邊恵美子代表／大谷五）の皆さんが、新聞紙で作った特製エコバッグを大谷小の新一年生 7 人にプレゼントしました。「交通安全に気をつけて元気に登下校してほしい」という願いを込めてプレゼントを始めて今年で 7 年目。中にはこちら手作り編み物や折り紙のおもちゃなどが入れられ、受け取った子どもたちは思わぬプレゼントにおどろきながら、喜びの声をあげていました。



▲2年連続準優勝の小学生チーム
◀中学生チーム白熱の試合

5/3 県内外の小中学生が団体戦で競い合う 第 33 回 豊龍神社祭典奉納柔道大会

5 月 3 日、町柔道連盟（堀幸雄会長）主催による第 33 回豊龍神社祭典奉納柔道大会が町民体育館で開催されました。今年は県内外から 40 チーム、200 人の選手がエントリー。関係者や観客を含め約 500 人の人出で体育館は熱気にあふれました。試合は団体戦で、朝日町のチームは小学生の部、中学生女子の部、男子の部すべてが予選リーグを突破し入賞。特に小学生の部では朝日柔道スポ少が 2 年連続で準優勝。白熱の決勝戦では、小さな体で戦い抜く姿に大きな声援が集まりました。

5/5 「自分の樹」が決定、摘花作業に爽やかな汗 りんごの樹オーナー制開園式

町特産の無袋ふじの P R を目的として、りんごの樹 1 本に 1 口 5 万円でオーナーを募集し、収穫まで体験していただく「りんごの樹オーナー制」。その開園式と摘花作業が、5 月 7 日、秋葉山交遊館および各園地で行われました。今年では 65 口の申し込みがあり、うち新規が 4 口。式および作業には、オーナーとその家族、友人など約 130 人が参加しました。当日は天候に恵まれ、参加者はあたたかい春の日差しの下、花摘み作業に爽やかな汗を流していました。



ホームページに写真



▼競技後、健闘を称え合う選手たち ▲激流を乗り越え、豪快に技を繰り出す



ホームページに写真



▲絨毯のように咲くカタクリの花道
◀陽光に透けたように柔らかな緑の光が降り注ぐ

4/16 国内のトップパドラーが集結 日本カヌーフリースタイル選手権

4 月 16 日、玉ノ井地内にあるカヌーランド（通称「タンの瀬」）で「日本カヌーフリースタイル選手権大会」が開催されました。日本カヌー連盟主催で、平成 21 年度から当会場で開催。世界選手権派遣選手の選考会も兼ねており、競技にあたって豊富な水量が好まれることから、毎年雪解け水の多いこの時期に開かれています。

「カヌーフリースタイル」とは、波の立つ場所や流れの落ち込む場所などで 2 m 前後のカヤック（艇）を操り、繰り出した技の得点を競うもの。昨年の世界選手権出場者など 34 人がエントリーし、日本各地からトップパドラーが集いました。

風がやや強いものの前日の雨で水量も多く、天候に恵まれた大会当日。カヌーファンやアマチュアカメラマンなど多くの観客が見守る中、選手たちは最上川の激流へ果敢に艇を進めます。難易度の高いダイナミックな技が決まると、周囲からは大きな拍手と歓声が上がっていました。

5/7 高田市の恒例行事として開催 10 年目 高田山ブナの森探索会

町で最も身近なブナ林と里山の魅力を感じてもらおうと、地元高田地区の皆さんが主催で毎年行っている「高田山ブナの森探索会」。その 10 回目が 5 月 7 日に開催され、町内外から過去最高の約 80 人が参加しました。

参加者の約半数が初参加。4 人の案内人が引率し、大人から子どもまで自分のペースで探索路を進みます。当日は青空に恵まれ、ブナの緑も輝くよう。参加者は時折立ち止まりながら、美しい景色と澄んだ空気を楽しんでいました。

また、今年は 10 年目の記念開催ということで、高田のお母さん方手づくりの山菜汁や凍み餅、わらび漬けのおもてなしがありました。山形市から初めて参加したという女性は「以前から来てみたくて念願の参加。ブナ林の緑が瑞々しく、カタクリ等の花も見頃でとても良かった。また、地区の皆さんの心づくしのおもてなしに感動した」と笑顔で語っていました。

どうして6総策定のために「町民ワークショップ」を開催するの？

多くの町民の皆さんの想いを「第6次町総合発展計画」に盛り込んでいきたいという考えのもと、このワークショップを開催しました。将来の希望に向かって「自分たちの町を自分たちの手でつくっていく」という「希望活動人口（※）」を一人でも多く育てていきたい。また、支援していきたいという想いがあります。

今後のまちづくりは、町民の皆さんと共に、同じ目標に向かって進んでいくことが一番大切ではないかと考えております。ですから、このワークショッ

プでは、どうかいつものお茶の間で、職場で、またはお友達同士で話すように自分の想いを存分にお話ししてください。

（※）希望活動人口…地域の将来に希望を持ち、その実現に向けて行動している人の数



町長あいさつ
鈴木浩幸 町長

人口減少・高齢化社会の中で税収は減少する一方、福祉や医療費の占める割合はどんどん増加しています。その結果、役場だけでは町を運営しきれない時代になってきています。

しかし「人口減少」というものの見方を変えれば、短期間で急激に増加しすぎたものが、適正な規模に戻っていく時代とも言えます。このような時代の中で、これからの自分たちの生き方や幸せを、町民の皆さんが町職員と共に考え、共に行動していくことは本当に大事なことです。

今回の計画は行政の計画であることはもちろん、「町民の皆さん自身がやっていきたいこと」を議論し、それをしっかりと計画に位置付けることが大切だと考えます。



町民ワークショップアドバイザー
東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科
准教授 醍醐孝典 氏



町民ワークショップ、
始まりました。

町民みんなで、これからの幸せをともに考える 6総策定町民ワークショップ ふりかえり新聞

1

【第1回】

日 時：平成 29 年 3 月 7 日（火） 午後 7 時～9 時 20 分

場 所：秋葉山交遊館

参加者：一般町民 44 名、町職員 35 名 計 79 名

PLAYBACK ワークショップ ～ 当日は、こんなことをやりました ～

①自己紹介

1 班 5～6 名のテーブルに分かれて自己紹介をしました。A3 判の用紙に名前や呼んでもらいたいニックネーム、特技や趣味、今のキモチなどを書いて発表。お互いを知ることができました。



③アイスブレイクゲーム

2 人 1 組になり、会話ゲームを行いました。まずは相手の誘いを、もう一方が断り続けるゲーム。次は相手の誘いに便乗して会話を盛り上げるゲームです。会話の楽しさを体験し、緊張が和らぎました。



②ワークショップのルールを確認

まちづくり総合アドバイザーであり、桃色ウサヒの中の人、佐藤恒平氏の進行のもと、ワークショップのルールを確認しました。

ルールは、 1. 楽しむ 2. 意見の批判をしない 3. できない理由を探すよりできる条件を探す 4. 人の話を最後まで聞く 5. 全員が面白い意見を出す 6. 面白い意見にはどんどん便乗する の 6 つです。

④ワークと発表

「町の魅力、強み」「町の悩み、課題」の 2 つのテーマで、各自が付箋に書き出す形で意見を出し合いました。最後に進行役の町職員が大判用紙にとりまとめ、グループで共有し、発表しました。



町民ワークショップの趣旨

平成 30 年度から平成 39 年度までの 10 年間のまちづくりの指標となる「第 6 次朝日町総合発展計画」。今年度は、その策定年にあたります。

この「町民ワークショップ」は、従来のような町民の皆さんが行政に要望を出し、行政がそれを聞く場ではありません。また、行政がつくった計画に対し、町民の皆さんから意見をもらう場でもありません。

町民も町職員も一緒になって、「これからも朝日町で幸せな生活を送っていくために、私たちがすべきことは何か」を「共に考え」、そして「共に実現していく」場です。

※この「6総策定町民ワークショップふりかえり新聞」では、当ワークショップで出た意見や参加者の様子を毎月レポートしていきます。

「第 6 次朝日町総合発展計画」 策定までの主な流れ

町民ワークショップ（全 6 回予定）

町職員 一般町民

「私たちがすべきことは何か」を考え、施策を提案

役場内での
総合発展計画
策定会議

策定委員会
町民代表
有識者

町民ワークショップで提案のあった施策の実現を盛り込んだ総合発展計画案を提案

町長

上程 →
← 議決

議会

第 6 次総合発展計画 完成

朝日町の魅力・強み

人柄

人が良い

人間性豊か／優しい／親切／温かい／人情が熱い
／面倒見が良い／フレンドリー／思いやり／聞けば何でも教えてくれる／消防・地区のことに一生懸命な人が多い／あいさつに元気がある／町のことが好きな人が多い／じいちゃん、ばあちゃんが元気／笑顔が多い／移住者増えている／若い人も農業やってる！／チャレンジ精神／感性が豊か など

立地・交通

山形市に意外と近い（30分以内）

町がコンパクト／県の真ん中、どこでも同じ時間でいける／意外と働くのに便利な位置／信号が少なく車で走りやすい／山形直行バス など

地域・人のつながり

人のつながりが強い

地区ごと仲よし／助け合い／頑張る消防団／地域のつながり、団結力が強い（大谷、風神祭）／地域性が豊か／顔見知り／近所で仲が良い など

自然

自然が豊か

空気が澄んでいる、おいしい

自然の中で遊べる／山がたくさんあり景色がいい／星がきれい／四季がはっきりしていてきれい／雪／蛍／白鳥がみられる／ヒメサユリ／ニホンカモシカ／ブナ林が美しい／地域資源が豊富／気候がおだやか など

その他・多かった意見

ユニークなゆるキャラ・ウサビが人気！／知名度アップ中／災害が少ない／自然観でスキーがすぐできる／除雪が上手／冬道がきれい／静か など

食べ物

りんごがおいしい

ワインがおいしい

水（水道水）がおいしい

おいしいものがいっぱい／食べ物が豊か／おいしい果物がいっぱい／果物がもらえる（買わなくていい）／日本酒おいしい／農産物がおいしい／山の恵み（米、野菜、山菜、きのこ、アケビ）が多い／ダチョウ／あっぶるニュー豚／ばあちゃんの味、昔からの料理／料理上手なお母さん多い など

子どもたち・子育て

子どもたちが素直

子どもたちがまじめ、しっかりあいさつをする／元気！／スポーツが盛ん／子育てしやすい、安心できる子育て環境／みんな保育園に入れる など

観光・イベント

りんご温泉

りんごの森／スキー場 集客数増／コテージがある／町の祭りに人が多く来るようになった／空気神社／名勝浮島がある／榎平の棚田 など

朝日町の悩み・課題

高齢化

高齢者のみや一人暮らし世帯の増

高齢者人口が多い（働き手不足、財政の不安）／核家族の増／国民年金で施設に入所できない人が多くいる／高齢者の知恵のバトンリレーが必要

交通

交通の便が悪い

駅がない

最寄駅まで遠い／通学用のバスなどが少ない／職場が遠い／車がないと生活できない／高齢者の足をもっと／県の真ん中なのでどこに行くにも遠い／場所的に山形市に近いが時間がかかる。市への交通の改良／道路が悪い など

集まって楽しめる場所

若い人の集まる場所、交流の場がない／夜集まる場所が少ない／店が閉まるのが早い／飲み屋が少ない、減っている／男の高齢者が集まらない、高齢者が集まれる身近な場所を

少子化

子どもが減ってきた

近所に年が近い子どもがいない／子どもと会う時がない／子どもの元気な声が聞かれない／出生率の低下／小学校のクラスの少子化／スポ少／部活が成り立たなくなる

働く場

働く職場、企業が少ない

仕事の種類が少ない／雇用があるけど就かない、就けない

雪

雪が多い

除雪が大変（家の前）／車の運転が厳しい／最近屋根の雪下ろしが大変（年のせい） など

町民性

参加する人固定化（町への無関心）／内向、引っ込み思案、恥ずかしがり屋が多い／口下手／うわさが広がる／出る杭は打たれる など

その他・多かった意見

農家の後継ぎが少ない／空き家が増えている／若い人が少ない／子どもの遊ぶ場所、外で集まる場所がない／りんごおいしいのに知らない人が多い、伝わらない／宿泊施設が少ない／高校・大学がない／通学が大変、親の送り迎えが必要／消防団が大変／エコミュージアムって？／虫、強すぎる／医療の充実（小児科の病院ない、医師不足） など

次回予告

次号6月号では、第2回（4月24日／ワークテーマ：朝日町の将来のビジョンを語り合おう）の様子をレポートします。お楽しみに！

【町民ワークショップの問合せ先】

政策推進課 総合戦略係
☎0237-67-2112

ワークを終えて…

【講評】

発表を聞いていて感じたのは、課題と魅力は表裏一体ということです。

それをどう捉え、力にしていけるかが、これから大事になってくると思います。



町民ワークショップアドバイザー
東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科

准教授 岡崎エミ 氏

参加者の声

（アンケートより一部抜粋）

意見を出しやすいやり方、雰囲気良かった。みんな笑顔で会議してなくていい。

ファシリテータ（進行役）をしましたが、時間内にまとめるのが難しかった。

役場の方々の上手な進め方と、みんなで知恵を絞ってのまとめ方、とても楽しく感じました。

ひとりひとりの小さな考え、意見が、町の未来に上手に反映されたらとても素敵なことだと思うので、今後のワークショップも楽しみです。

年代関係なく意見を出し合える機会はなかなかないので、チャンスだと思う。

次回も楽しみです。やはり楽しみながら考えて良いね！若くなった感じがします。



朝日町協力隊として白倉区に着任して1年が過ぎました。石井 応宝（いし いまさとみ）です。町で過ごす初めての冬が過ぎました。

雪国暮らしの経験の無い私にとっ て、このひと冬は驚きと戸惑いの連 続でした。一晩で膝上まで積もる雪 汗だくで行った公民館屋根の雪下ろ し。また、白倉展望台からの美しい 雪景色。凍結した路面で車がスリッ プして、雪壁に突っ込んだこと…。 役場の方や地区の皆さんに助けてい ただき、なんとかひと冬を無事のり 越えることができました。

今は雪が解け、草木が芽吹き、 生き物たちが生き生きとし、人々 も活発に動き始めています。その せいか、ここ23カ月で新たな出会



町地域おこし協力隊と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平まちづくり総合アドバイザーによる連載コー ナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

「春の芽吹きとともに訪れた、たくさんの出会い」

朝日町協力隊（地域おこし協力隊） 石井 応宝 （東京都出身）



▲改修を開始した白倉区の古民家での1枚
インスタグラム「朝日町手帖」のURL：
<https://www.instagram.com/asahitown.note/>

が増えました。そこから学ぶことは 数多く、実になることは多いです。

例えば炭焼きのお手伝い。特殊な 道具を使い、匂いや煙の色で出来具合 を見極めるなど、細かい気配りが品 質を左右すると知りました。この体験 を通して知り合った町の青年有志会 の 方々は、町のために様々な考えを持っ て活動しており、目指す方向は同じだ と、興味と共感を覚えました。

さて、白倉区内にある古民家の 改修作業も始まりました。ここで、 皆さんから学んだことを活かせるよ うな活動を行っていきます。

また、最近「朝日町手帖」というイ ンスタグラム（写真投稿主体のSNS） を開設しました。白倉展望台からの景 観など、町の情報を発信していきます。 ぜひ覗いてみてください。



健診は「からだの通知表」

今月の担当…太田 律 健康推進係長（保健師）



年齢を重ねるにつれ、健診の結果が届くとなぜかドキドキ！血圧は高くないか。血糖値はどうか…。私も最近 は緊張しながら結果とに らめついています。

健診は自分の健康状態を 知って生活習慣病を予防し たり、隠れた病気を発見す るために行われます。では皆 さん、健診結果をもう一度開 いてみましょう。

「食べ過ぎをやめ、体重が 減り、血圧が正常値になった」 「ウォーキングを始め、中性 脂肪が改善した」――。

以前と比べて良くなってい る項目のほか、悪くなってい る項目や変化がない項目に も注目して確認します。

「良くない」結果が出てい ても自覚症状はないし、ピン とこないという方も多いよう です。しかし、進行して症状 が出たら大変です。治 療が一生涯、仕事に支障が 出る場合もあります。

忙しくて健康を気にする 余裕がない方、無理をしてい ませんか。このままのペース で頑張り続けられますか。 倒れてしまつては元も子も ありません。少し立ち止まっ て、自分の健康について考え てみましょう。生活スタイル を変えるのは面倒だとい

方には、おススメのポイント が3つあります。

①仲間と一緒に頑張る
家族や友人、職場の仲間 に意思表示をして、一緒に健 康づくりを。

②生活を記録する
記録をすると、なぜ体重 が減るか、増えるのかが自 分でわかるようになります。 そうなれば自然と気を付け ることができます。

③外見Ⅱ見た目年齢を意識
体重計に乗ったり、鏡を見 たり、「外見Ⅱ自分の見た目 年齢」をチェックします。

おしゃれを忘れず、服装 もお腹まわりが楽になりす ぎないように。いつものベル トがきつくないかも確認しま しょう。

さて、今年度も健診が始 まります。5年後、10年後 の自分はどんな生活を送り たいのか。楽しい未来のため に、今から「健康設計」はじ めませんか。

▼健康福祉課 健康推進係
☎67・2116



「少年時代」

深水 黎郎 著

あきらめないことの大切さを僕 に教えてくれた、チンドン屋のシ ゲさん。ある日、町で殺人事件が 起きて…。大人の世界の理不尽に さられながらもひたむきに生き る。ピュアな少年たちの成長を描 く。昭和の香り漂う懐かしい時 代の風景から予想外の展開が待 ち受ける、書き下ろし連作小説。 著者は山形市出身。

「みどりの町をつくらう―災害 をのりこえて未来をめざす―」

アラシ・ドラモンド 作／まつむらゆりこ 訳

巨大な電巻が、アメリカ・カン ザス州の小さな町グリーンズバ ーグを壊してしまいました。しかし、 町の人々は希望を失うことなく 未来をめざし…。実話を元に描か れた、みどりの町の物語。

ブックテーマコーナー

出発！のりもの絵本特集
～のりものについておでかけしよう～

【その他の新刊】

- ▼血縁／長岡弘樹
- ▼角野栄子 の毎日いろ／角野栄子
- ▼決 戦／忠臣蔵／華室麟
- ▼城をひ とつ／伊東潤
- ▼夜の谷を行く／桐 野夏生
- ▼カウントダウン／真梨 幸子
- ▼大人の流儀／伊集院 静
- ▼べつびんさん下／渡辺千穂
- ▼父と私／田中真紀子
- ▼キャピ タル／加藤秀行
- ▼月の満ち欠け／佐藤正午
- ▼さくばあし魔法 使い／東川篤哉
- ▼遠縁の女／青 山文平
- ▼介護破産／結城康博
- ▼ひよこ上／岡田恵和
- ▼ウ ルトラ図解乳がん／齋藤光江
- ▼るるる高知四万十、18
- ▼るるる ぶ札帳、18
- ▼小樽 富良野 旭山動 物園
- ▼「大人の引きこもり」を 救え／廣岡政幸
- ▼あとは野と なれ大和撫子／宮内修介
- ▼ど んぶらこいとうせいのう
- ▼B UTER／柚木麻子
- ▼ひとめ ぼれ／畠中恵
- ▼尖閣諸島と日 中外交／塩田純
- ▼PO 警視庁 組対三課・片桐美波／深町秋生
- ▼素敵な日本人／東野圭吾
- ほか

町全体が博物館！

朝日町エコミュージアム

サテライト散策

第1回 高田山のブナ林

【DATA】高田公民館から徒歩約 15 分、散策所要時間 約 120 分

高田集落西約 1km 地点の長沼・大沼林道から入る、およそ 4km の探 索コース。水林沢の上流部の尾根筋にブナの林が広がります。

コース中には棚田や杉林、ヤマナシの太木、炭焼き窯跡、修験者の伝 説が残る道などの見所のほか、頂上には東西 2 つの展望台があります。

東展望台からは宿宮地区を一望でき、西展望台からは Asahi 自然観を 手前に、朝日連峰のパノラマを見ることができます。

【おすすめの季節】5～6月、10～11月初旬

このブナ林は、昔から水源林としてあった原生林が、 昭和 19 年の戦時中に軍用飛行機の材料として国に伐採 され、その後に再び育ったものなんだ。樹齢は 70 年く らいで、全部で 400 本位のブナの樹があるよ。

10 年前から高田地区の皆さんが、町の本でもあるブ ナ林の美しさを身近に知ってもらおうと、探索路の整備 と維持を行っているんだ。恒例になった「探索会」は、 今年で 10 回目を迎えたよ。

案内人の つぶやき

戸籍のまど

Asahi town

4月1日～4月30日届出



Births

すこやかに

区 名	出生児氏名	性別	保護者名
沼 向	菅 井 結 仁 ^{ゆい と}	男	勇輝・飛鳥
高 田	高 山 伶 ^{りょう}	男	知幸・友希
沼 向	菅 井 善 ^{ぜん}	男	健太・早紀

Obituaries

やすらかに

区 名	死亡者氏名	世帯主名
大谷六	小 野 喜ぬ子	本 人
大 滝	柴 田 きみ子	本 人
大谷一	白 田 み つ	雄 一
本 町	相 座 八重子	本 人
松 程	阿 部 光 春	本 人

掲載を希望しない場合は
届け出の際にお申し付けください

Population

人口と世帯数

●平成29年 4月30日 現在

※（ ）内は先月比

人 口	7,169 人 (－20)
男	3,545 人 (－13)
女	3,624 人 (－7)
世帯数	2,469 世帯 (－6)

----- 4月中の異動 -----

出生	3人	転入	17人
死亡	9人	転出	31人

(※外国人を含む)

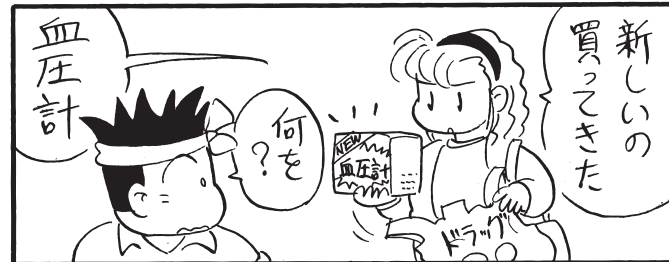


畑一面の見事なスイセンの花 (宇津野地内)

とないの リンゴさん

(291)

ホリイ



前田沢公民館に「花咲か爺さん」



前田沢公民館駐車場に立つ桜の木「夢桜」。その木の根元に今年も「花咲か爺さん」の力カシが登場しました。前田沢いきいきクラブ(長岡一美代表)が毎年桜の季節に合わせて制作しているもので、夏の交通安全力カシ(国道287号沿いに設置)と並ぶクラブの恒例行事となっています。ぜひご覧ください。

みなさんからのおたよりなどで作るコーナーです。

町に対する意見や要望、質問、提案などをお寄せください。
無記名での投書に対しては、事実関係の確認が難しく、
回答できない場合もありますので、ご了承ください。

〒990-1442 朝日町大字宮宿 1115 番地
朝日町役場 政策推進課 地域情報係 ☎ 67-2112
メール / inform@town.asahi.yamagata.jp

VOICE

町民の 声



各種団体の会費について

会計報告を希望します

4 月に町および地区関係の各種団体会費の徴収があります。春先は他にも出費が多いこともあり負担が大きいですし、この金額は他市町村に比べても高いように感じます。

必要な経費であるなら、その用途について皆が納得できるよう、きちんと会計報告をするべきだと思っています。

ご意見をいただいた各種団体の会計報告、また、予算、決算につきましては、各団体の総会や役員会において審議、承認をいただいております。

またその際、地区の代表として区長さんや公民館長などの役員さんにご出席いただき、これをもって公表とさせていただきます。

公表方法につきましては、より時代に合わせた方策を検討してまいります。あわせて他市町



の状況も把握しながら、今後の会費のあり方についても検討していきます。

これら各団体の活動は、地域自治や防災、衛生、福祉、生涯学習の推進など、それぞれ町民の安心と安全のためのものです。

年度当初からの運営に充当するため、活動経費となる会費を、町内全戸より、毎年4月に集金させていただきます。

集金時期が重なり、余計に負担を大きくさせてしまい申し訳ありません。各種団体活動の趣旨を踏まえ、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

【政策推進課 地域振興係】

朝日中学校3年生修学旅行 上野公園で町をPR

4月27日、上野公園(東京都)で、朝日中学校の3年生64人が、合唱の披露と町のPR活動を行いました。修学旅行の一環として、毎年行っているもの。町を紹介する手づくりのリーフレットを手に、道行く人に「ぜひ朝日町に来てください」と笑顔で声をかけました。

「今年の修学旅行のテーマは『Growing up(＝成長)』。この旅行を通して成長し、大きく未来へ踏み出そうという意味です」と話すのは修学旅行実行委員長の渡辺りりかさん(大町)。PR活動については「最初は不安でしたが、声をかけてみると相手の人も私たちや町を知ろうと反応してくれるのが嬉しかった」と語ります。

修学旅行では他にも、町と所縁のある事業所等を訪れる「キャリア訪問」、自分たちでルートを計画した「班別研修」など、充実した経験を積んだ生徒たち。目標通り大きく成長して帰ってきました。



▲公園広場での堂々とした合唱
◀▼町を紹介する手づくりのリーフレットでPR。自分から積極的に声をかける生徒たちの姿



▼今年参加した「雪りんご研究会」のメンバー13名。笑顔で記念撮影

今年もおいしい「雪りんご」できました。

5月1日、今年も「雪りんご」の掘り出し作業がAsahi自然観駐車場で行われ、「雪りんご研究会」(志藤修治会長/栗木沢)のメンバー等約20人が参加しました。

町内産りんごを旬の間に雪中に貯蔵し、鮮度を保持することで春先までおいしいりんごを提供しようと始めた試み。8年目となる今年は、1月上旬にコンテナで400箱を貯蔵しました。

排雪作業が終わり、かけられたブルーシートをめくると、甘い香りとともに真っ赤なりんごが約半年振りに顔を覗かせます。割って

みると、実の中央には黄金色の蜜がたっぷり。口に含めばみずみずしく、硬さも甘味も十分です。

「メンバーで色や大きさを合わせたこともあり、今年も納得の出来です」と語る代表の志藤さん。「町の名物として知名度も上がり、年々注目が高まっているのを感じます。楽しみに待っていてくださるお客さまに、おいしく食べてもらえたら」と笑顔を見せてくれました。

掘り出した「雪りんご」は5月3日より道の駅あさひまち等で販売を開始。用意した1キロ詰め4000袋が2日で完売と大人気でした。

春夏秋冬 編集後記

「将来も安心」
頼れる地域医療とは

今号の特集で、初めて町立病院のリハビリ室にお邪魔しました。スタッフの皆さんはもちろん、通われている町民の皆さんの明るく楽しいような様子が印象的でした。

私は今まで「リハビリ」厳しい運動メニューを辛くても我慢してこなさなきゃならないもの」だと思っていたのですが、作業療法士の清野さんによると「無理してやっても良い体験にならないし、嫌なことはやらなくて良いんですよ」とのこと。それを聞いて感じたのは「安心」でした。

自分や家族がケガや病気になった時、また障がいが残った時、こうした施設や支えてくれる人たちが身近にいるということは、本当に心強いものです。

また、笑顔でトレーニングを頑張る皆さんを見て、障がいの有無に関係なく自分も将来こうして笑って過ごせたら素敵だなと思いました。

健康といえるうちは、そのありがたみがよくわからないもの。日頃の運動不足を省みて、私もストレッチから始めてみようと思います。

村山 彩